

Kansai Economic Insight Monthly

2017/1/27

Vol.45 December/January

・ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ レポート公開時期は毎月第 4 週火曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長)、林万平・木下祐輔・James Brady・Cao Thi Khanh Nguyet (各 APIR 研究員) 及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

・ 本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の 2 府 4 県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドと CI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	9
中国景気モニター	10
主要月次統計	14
Release Calendar	15

要旨

-足下景気は幾分改善だが、先行きは足踏み*-

- ✓ 11月の鉱工業生産指数は前月比2カ月ぶりのプラス。10-11月平均を7-9月期平均と比較すれば、増産のスピードは加速しており、10-12月期は4期連続のプラスとなる見込み。
- ✓ 12月の貿易収支は11カ月連続で改善した。2016年通年で見れば、輸出は前年比マイナスも資源価格の下落により輸入はそれ以上に減少した。結果、貿易収支は2年連続の黒字であった。
- ✓ 12月の消費者態度指数は3カ月ぶりの改善。景気ウォッチャー現状判断DIも3カ月連続の改善。米国新大統領就任による世界経済や金融市場への影響への懸念から、先行き見通しは2カ月ぶりに悪化した。
- ✓ 9月の関西2府4県の現金給与総額は3カ月連続の低下。10月の「関西コア」賃金指数も4カ月連続の低下。賃金は緩やかな下落が続いている。
- ✓ 11月の大型小売店の販売額は4カ月連続の前年比マイナス。スーパーはプラスであったが、百貨店は前年よりも休日がないこと等が響き、11カ月連続のマイナス。
- ✓ 関西11月の新設住宅着工戸数は前年同月比4カ月ぶりの増加。利用関係別にみると、特に分譲の寄与が大きかった。
- ✓ 11月の有効求人倍率は3カ月連続の小幅上昇。新規求人倍率も2カ月ぶりの上昇。完全失業率は3カ月ぶりに小幅悪化したものの、雇用情勢は好調が続く。
- ✓ 12月の公共工事請負金額は3カ月連続の前年比マイナス、季節調整値は5カ月ぶりの前月比大幅プラスも、10-12月期は2期連続のマイナス。
- ✓ 12月の関空への訪日外客数は依然高水準を維持。2016年通年で見ると、訪日外客数は609万人となり、前年比+21.5%増加した。一方、2016年の訪日外客の平均支出額は、年初来の円高の影響や中国の爆買いの終焉により、前年比-11.5%と大きく減少した。
- ✓ 中国10-12月期の実質GDP成長率は前年比+6.8%となった。結果、2016年通年では+6.7%と、1990年以降の26年間で最も低い成長率を記録した。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦リサーチリーダー)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。
関西全体のCI, 試作CLIの推移は2ページを参照。

【関西経済のトレンド】

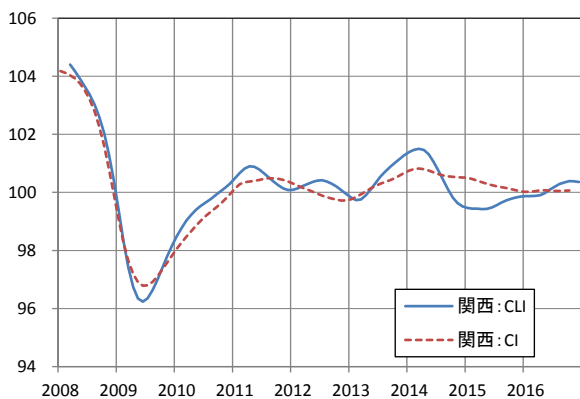
	2015年		2016年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
生産	↓	↑	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↓	↑		
貿易	↑	→	↑	↑	↑	→	↑	↑	→	→	↑	↑	↑	
センチメント	↑	↓	↓	↓	↑	→	↓	↑	↓	↓	↑	↑	↑	
消費	→	↑	↑	→	→	↓	↓	→	↓	↓	↓	↓		
住宅	↓	↑	↑	↑	↑	→	↓	↑	↓	→	→	→		
雇用	↑	→	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↑	↑		
公共工事	→	↓	↑	↑	↑	→	↓	↑	↑	↑	↓	↓	→	
中国	↓	↓	↓	→	→	→	→	→	→	→	→	↑	↑	

(*トレンドの判断基準)

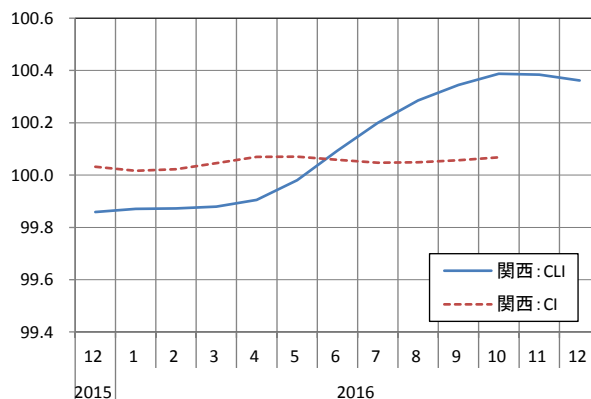
- ・ **生産**: 近畿経済産業局『近畿地域輸出工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**: 大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**: 内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**: 近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**: 国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**: 厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**: 西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2008年1月~2016年12月まで)



直近1年間の推移(2015年12月~2016年12月まで)



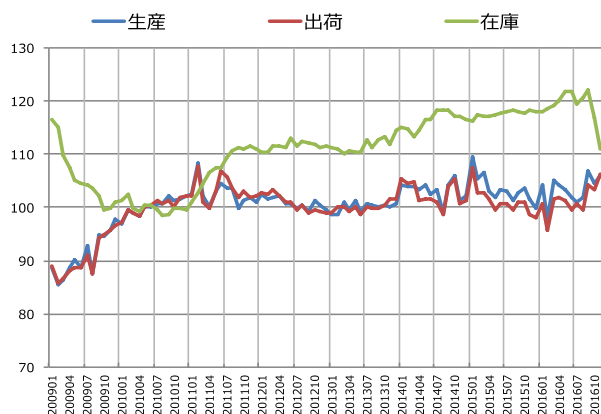
【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

2016年11月の鉱工業指数(確報値:季節調整済, 2010年=100)を見ると、生産は105.9で前月比+1.3%と2カ月ぶりの上昇。出荷は106.3で同+2.7%と2カ月ぶりの上昇。在庫は111.1で同-4.9%と2カ月連続の減少。ただし、10-11月平均の生産指数を、7-9月期と比較すると、+1.9%の伸びとなっている。2016年に入り、3四半期連続で緩やかに改善しており、4期連続の増産となる見込みである。生産と強い関係がある11月近畿の実質輸出は前月比+2.9%と2カ月連続の伸びであった。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比+8.0%、2カ月ぶり)、情報通信機械(同+25.4%、2カ月ぶり)、電気機械(同+5.2%、3カ月ぶり)等が増産となった。一方、窯業・土石製品(同-5.5%、3カ月ぶり)、鉄鋼(同-3.1%、2カ月連続)、プラスチック製品(同-1.2%、2カ月ぶり)等が減産となった。

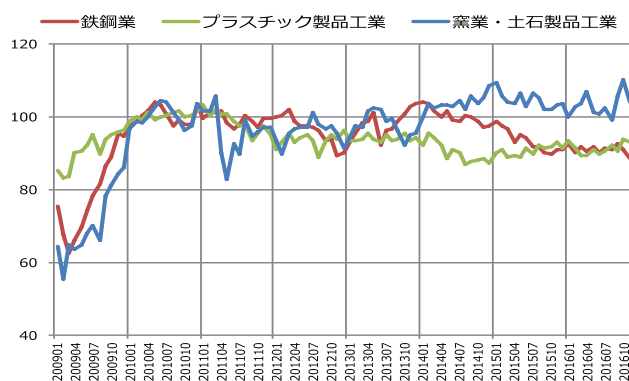
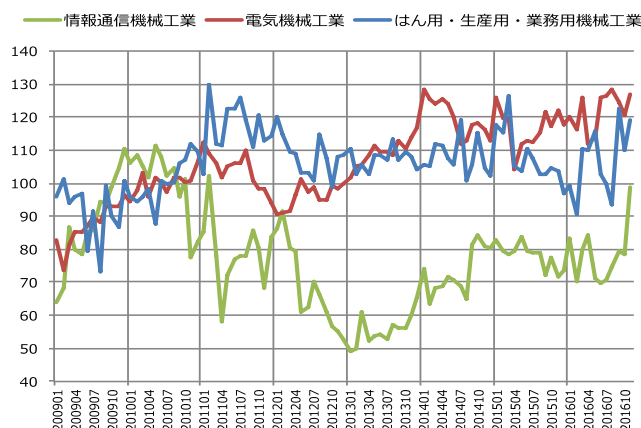
鉱工業指数の推移(関西:2016年11月まで、2010年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

業種別生産指数の推移(関西:2016年11月まで、2010年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

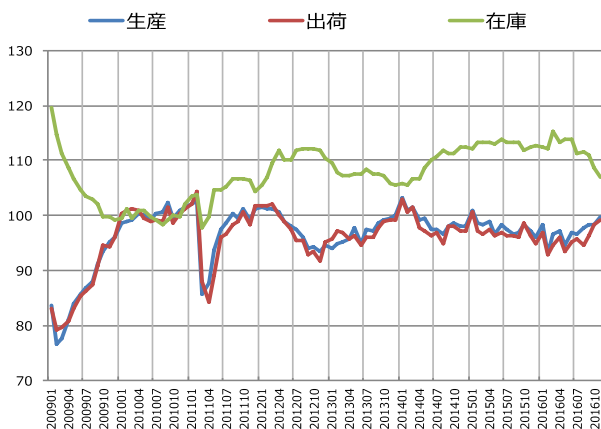
(2) 全国の生産動向

全国における11月の鉱工業指数(確報値:季節調整済, 2010年=100)を見ると、生産は99.9となり前月比+1.5%と2カ月ぶりの上昇。出荷は99.3で同+1.0%と3カ月連続の上昇。在庫は106.9で同-1.6%と3カ月連続の低下。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+3.3%)、電気機械(同+5.5%)、輸送機械(同+1.6%)等を中心に増産となった。一方、食料品・たばこ(同-1.1%)、窯業・土石製品(同-0.8%)、パルプ・紙・紙加工品(同-0.4%)等は減産。

速報値公表時に発表された製造工業生産予測調査によれば、12月は前月比+2.0%、2017年1月も同+2.2%の増産となっている。生産は緩やかな回復の見込みである。

鉱工業指数の推移(全国:2016年11月まで、2010年=100)



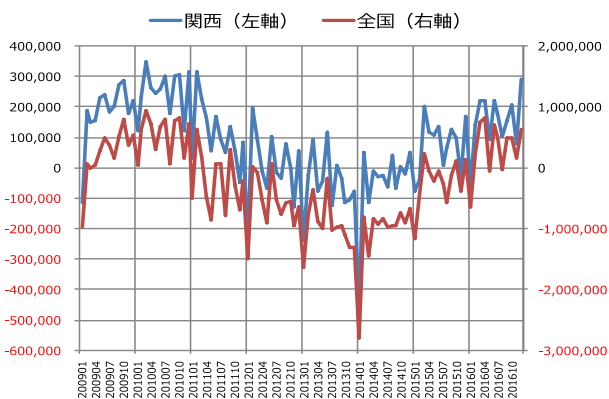
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、12月関西の貿易収支は+2,892億円と11カ月連続の黒字となり、貿易収支は前年同月比+73.6%の改善。全国の貿易収支(速報値)は+6,414億円と4カ月連続の黒字となり、同+361.6%改善した。円高傾向は前月より縮小しつつあり、足下、貿易収支は大きく改善している。なお、暦年で見れば、関西の貿易収支(1兆8,455億円)は2年連続の黒字となり、黒字幅は前年比+109.3%の拡大。全国(4兆741億円)は6年ぶりの黒字であった。関西、全国とも、輸出の伸びは前年比マイナスであったが、資源価格の下落により、輸入がそれ以上に減少したことで貿易収支は黒字であった。

関西・全国の貿易収支の推移:(百万円, 2016年12月まで)



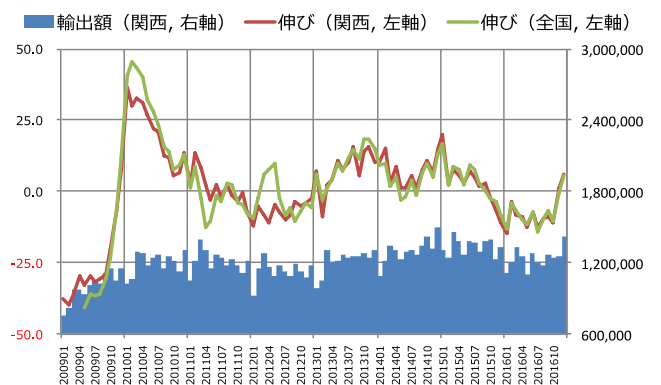
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

(2) 輸出

関西12月の輸出額(速報値)は1兆4,185億円。前年同月比+6.0%と2カ月連続の増加。財別に見れば、半導体等製造装置(過去最高額)、半導体等電子部品の輸出が増加した。なお、同月の為替レート(税関長公示レートベース)は113.31円と円高のスピードはやや減速しつつあるが、前年同月比+7.6%と11カ月連続の円高。

全国12月の輸出額(速報値)は6兆6,790億円、前年同月比+5.4%と15カ月ぶりの増加。財別に見れば、自動車の部品、半導体等電子部品、電気回路等の機器等の輸出が増加した。他方、自動車の輸出は減少となった。

関西・全国の輸出の推移(百万円, 前年同月比, 2016年12月まで)

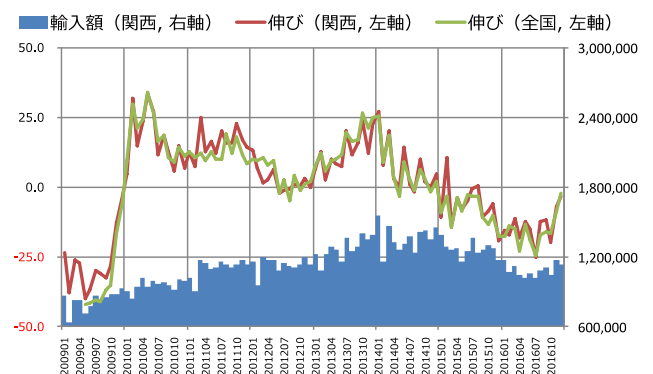


(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

(3) 輸入

関西12月の輸入額(速報値)は1兆1,293億円、伸びは前年同月比-3.7%と16カ月連続の減少。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、衣類及び同付属品が減少した。

関西・全国の輸入の推移(百万円, 前年同月比, 2016年12月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

全国12月の輸入額(速報値)は6兆376億円、前年同月比-2.6%と24カ月連続の減少。財別に見れば、液化天然ガス、医薬品、衣類同付属品等の輸入が減少している。資源価格は前年に引き続き下落傾向にあるが、下落幅は縮小している。

(4) 関西の地域別貿易

関西12月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は+3,540億円と11カ月連続の黒字となり、貿易収支は前年同月比+73.5%改善した。7カ月連続のプラス。輸出は2カ月連続の増加(同+10.2%)。財別に見れば、半導体等電子部品、半導体等製造装置等が増加した。一方、輸入は16カ月連続の減少(同-8.3%)。財別に見ると、天然ガス及び製造ガス、衣類及び同付属品等が減少した。

うち、対中貿易収支は+14億円と58カ月ぶりの黒字となった。前年同月から569億円の改善。輸出は2カ月連続の増加(同+11.1%)。輸入は9カ月連続の減少(同-4.9%)。

対米貿易収支は+792億円と黒字基調が続いているものの、黒字幅は6カ月連続で前年から縮小(同-20.5%)。うち、輸出は14カ月連続のマイナス(同-5.5%)。財別に見れば、鉄鋼、建設用・鉱山用機械等が減少した。輸入は11カ月ぶりの増加(同+10.7%)。財別に見れば、無機化合物、医薬品等が増加となった。

対EU貿易収支は+102億円と2カ月ぶりの黒字も貿易収支は前年同月比-7.5%縮小した。輸出は2カ月ぶりの減少(同-2.1%)。財別に見れば、二輪自動車、鉄鋼等が減少。輸入は10カ月連続の減少(同-1.6%)。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、有機化合物等が減少した。

【消費者センチメント】

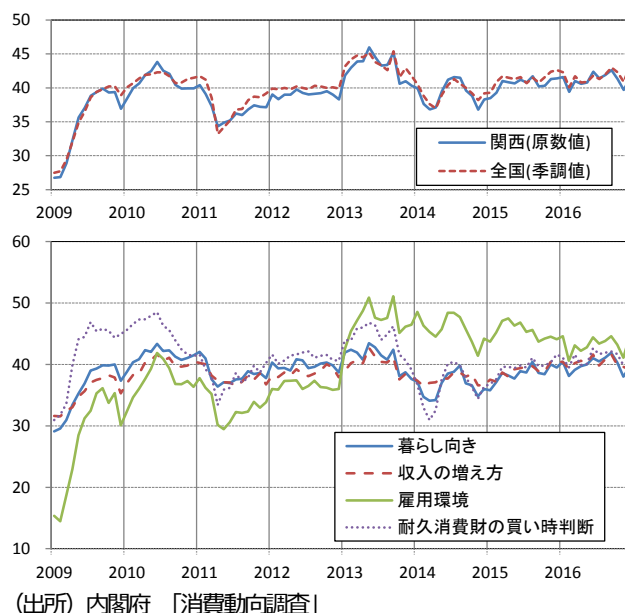
(1) 消費者態度指数の動向

関西の12月の消費者態度指数(原数値)は前月比+1.6ポイント上昇し41.3となり、3カ月ぶりの改善。全国(季節調整値)も同+2.2ポイント上昇し43.1となり、こちらも3カ月ぶりに改善。東京オリンピック開催が決まった2013年9月(45.4)以来の高水準であった。

全国では4つの指数構成項目すべてが、前月から改善。「雇用環境」が前月比で+3.2ポイントと最も改善幅が大きく、次いで「耐久消費財の買い時判断」が同+2.3ポイント、「暮らし向き」が同+1.9ポイント、「収入の増え方」が同+1.5ポイントそれぞれ上昇した。背景として、株高による資産効果や生鮮野菜の価格上昇に一服感が見られ、消費者心理が上向いたこと、円安による企業収益の改善期待などが寄与したとみられる。内閣府は消費者心理の基調判断を「持ち直しのテンポが緩やかになっている」として据え置いた。

関西の同指数構成項目を見ると、「収入の増え方」を除く3指標が改善。内訳を見ると、「雇用環境」が前月比+3.3ポイントで最も大きく、次いで「耐久消費財の買い時判断」が同+2.2ポイント、「暮らし向き」が同+1.5ポイント上昇した(いずれも3カ月ぶり)。一方、「収入の増え方」は同-0.4ポイント低下し、3カ月連続で悪化が続いている。

消費者態度指数(2016年12月まで)



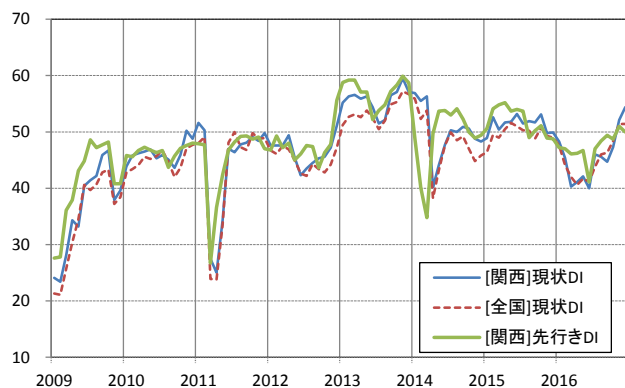
(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の12月の現状判断DI(季節調整値)は54.4と前月比+2.3ポイント上昇し、3カ月連続の改善。景況感の良し悪しの分かれ目となる50を2カ月連続で上回った。全国は51.4で同横ばいであった。

関西で主として改善に寄与したのは、前月に引き続き天候要因とみられる。月の前半や年末にかけて、平年を下回る厳しい寒さとなったことから、コート類を中心に冬物商材の販売が好調だった。また、米国大統領選挙以降進行した円安・株高が百貨店での高額消費につながるといった動きが、コメントからも確認できる。

また、先行き判断DI(季節調整値)は、関西では50.0と前月比-1.0ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。米国新大統領就任による世界経済や金融市場への影響を懸念するコメントが多く見られる。また、春節を控えるものの、インバウンドに期待する声はあまり見られない。こうした要因が先行き見通し悪化に寄与したとみられる。全国は50.9と同-0.4ポイント低下し、6カ月ぶりに悪化した。

景気ウォッチャー調査(2016年12月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費・住宅】

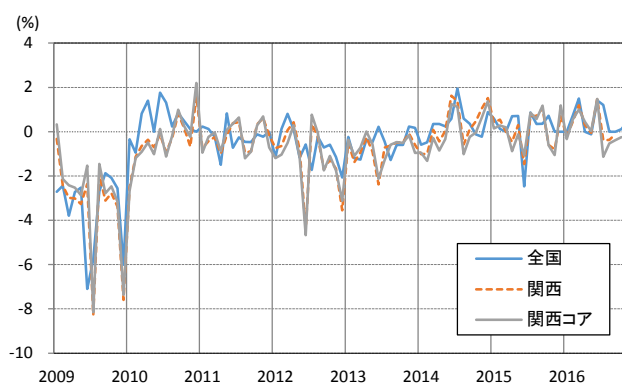
(1) 現金給与総額

9月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は26万3,189円で前年同月比-0.1%となり、3カ月連続の低下。府県別では、滋賀県が同+3.2%(8カ月連続)、京都府が同+0.9%(3カ月ぶり)、和歌山県が同+0.6%(2カ月ぶり)の上昇。一方、兵庫県が同-0.7%(3カ月連続)、大阪府が同-0.6%(3カ月連続)、奈良県が同-0.4%(2カ月連続)の下落となった。また、9月の京都・大阪・兵庫の加重平均をとった速報性のある「関西コア」賃金指数(APIR推計)は同

-0.2%と4カ月連続で下落した。賃金は緩やかな下落が続いている。

全国(確報値)の現金給与総額をみると、11月は前年同月比で+0.5%と2カ月連続の上昇であった。内訳をみると、所定内給与は同+0.4%と5カ月連続のプラス。所定外給与は同-1.3%と6カ月連続のマイナス。一方、特別給与は同+2.0%と4カ月ぶりのプラス。また、現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は2カ月連続で同横ばいであった。

現金給与総額(前年同月比:%, 2016年11月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

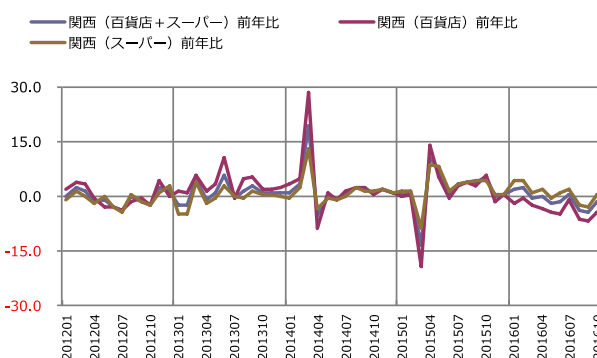
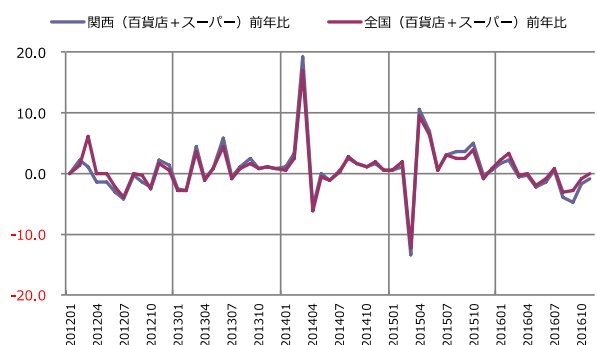
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

(2) 大型小売店販売額

関西11月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比-1.0%と4カ月連続のマイナス。百貨店は同-3.7%減少し、11カ月連続のマイナス。スーパーは同+1.0%と2カ月連続のプラス。前年より土・日・祝休日が1日少なかったことが、百貨店の販売に響いたものと考えられる。関西のスーパーでは飲食料品、紳士服・用品等が前年を上回ったこともあり、足下の伸びはプラスであった。

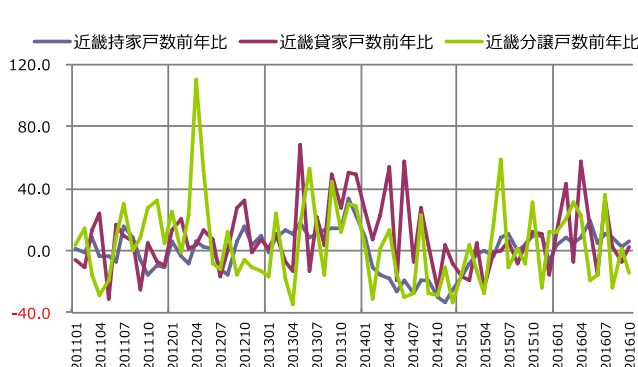
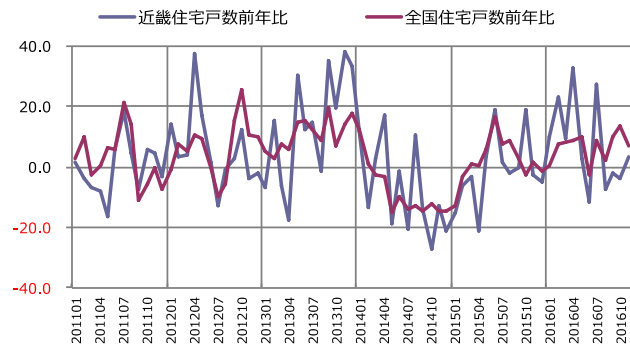
全国11月の大型小売店販売額(全店ベース)は前年同月比-0.1%と小幅の減少であった。4カ月連続のマイナス。

大型小売店販売額(前年同月比: %、2016年11月まで)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

新設住宅着工戸数(前年同月比: %、2016年11月まで)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

(3) 新設住宅着工の動向

関西 11 月の新設住宅着工戸数は 12,257 戸。前年同月比 +3.2% となり、4 カ月ぶりの増加。全国は 85,051 戸と同 +6.7% 増加し、5 カ月連続のプラス。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は 3,289 戸。前年同月比 +2.8% と 11 カ月連続のプラス。貸家は 5,267 戸、同 +0.7% と 2 カ月連続の増加。分譲は 3,680 戸、同 +8.4% 増加し、2 カ月ぶりのプラス。関西の新設住宅着工は、持家、貸家、分譲共にプラスとなった。

12 月の関西マンション契約率は 72.7% (季節調整値、APIR 推計)。好不調の目安となる 70% を 3 カ月連続で上回った。首都圏は 79.6% (季節調整値、APIR 推計) と 3 カ月ぶりに 70% を上回った。

【雇用動向】

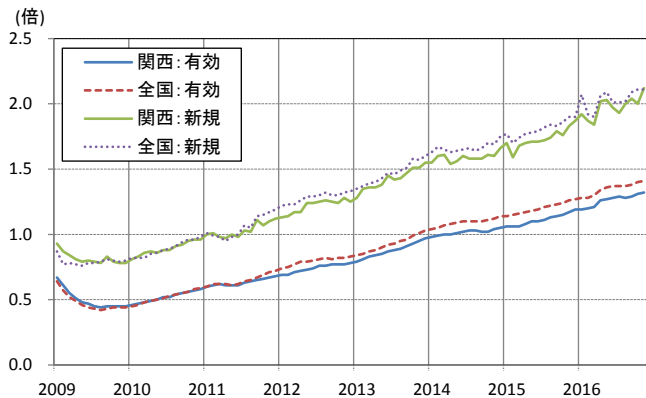
(1) 求人倍率の動向

11 月の関西の有効求人倍率は、1.32 倍で前月比 +0.01 ポイント小幅上昇し、3 カ月連続の上昇。依然として高水準が続いている。また、11 月の全国は 1.41 倍と同 +0.01 ポイントと 3 カ月連続の小幅上昇となった。1991 年 7 月(1.44 倍)以来の高水準となった。雇用情勢は好調が続いている。

有効求人倍率を府県別にみると、奈良県で前月比 +0.06 ポイント、京都府で +0.04 ポイント、滋賀県で +0.02 ポイント、大阪府・兵庫県で同 +0.01 ポイント上昇した。一方、和歌山県では同 -0.05 ポイント下落した。

11 月の関西の新規求人倍率は、2.12 倍で前月比 +0.12 ポイントと 2 カ月ぶりの上昇。4 カ月連続で 2 倍超となった。新規求人数が同 +5.7% 増加し、全体を押し上げた。全国は 2.11 倍と同横ばいであった。

求人倍率の推移 (季節調整値、2016年11月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西2府4県有効求人倍率(2016年11月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
11月	1.41	1.32	1.22	1.36	1.44	1.18	1.24	1.14
10月	1.40	1.31	1.20	1.32	1.43	1.17	1.18	1.19

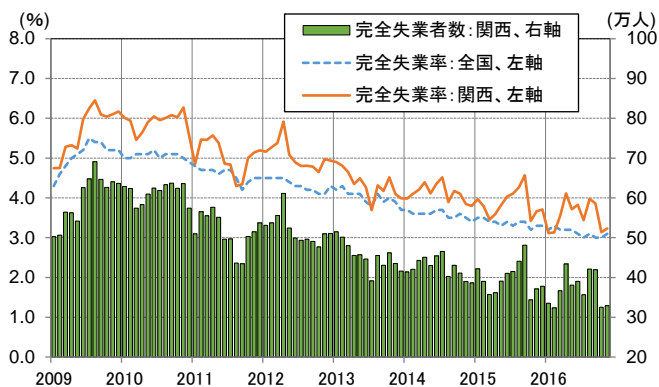
(2) 完全失業率の推移

11月の関西の完全失業率(季節調整値: APIR 推計)は3.2%で前月比+0.1%ポイント小幅上昇し、3カ月ぶりの悪化。労働力人口が小幅減少したためである。しかしながら、雇用環境は堅調が続いている。

関西の完全失業者数(季節調整値: APIR 推計)は32.9万人で前月から+0.4万人小幅増加。3カ月ぶりに悪化した。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.1%となり、前月比+0.1%ポイント小幅上昇し、3カ月ぶりの悪化。

完全失業率の推移 (季節調整値: 2016年11月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」

11月の全国の完全失業者数(季節調整値)は205万人で前月から+8万人増加。理由別にみると、非自発的な離職が

3万人減少、自発的な離職(自己都合)が3万人増加した。

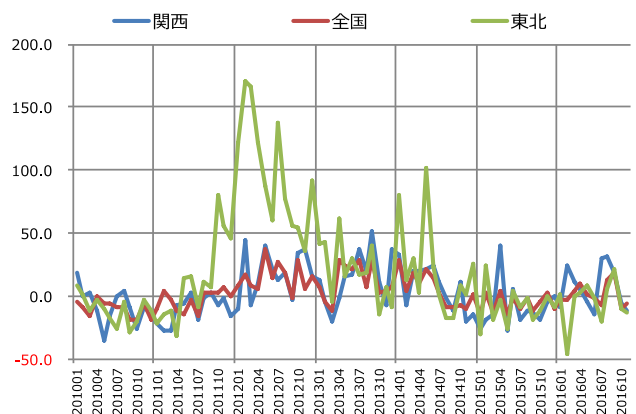
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

関西12月の公共工事請負金額は958億円で前年同月比-1.5%と3カ月連続の減少。全国は8,514億円で同+5.3%と3カ月ぶりの増加。東北は1,768億円で同+7.4%と3カ月ぶりのプラス。

季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西は5カ月ぶりのプラス、全国は2カ月連続のプラス(関西: 同+21.3%、全国: 同+7.5%)。足下、関西の公共工事請負金額は減少が続いており、10-12月期は前期比-26.1%と2期連続のマイナス。全国の公共工事も同-10.1%と2期連続のマイナス。補正予算の効果の発現には時間がかかりそうである。

公共工事請負金額(前年同月比: %, 2016年12月まで)



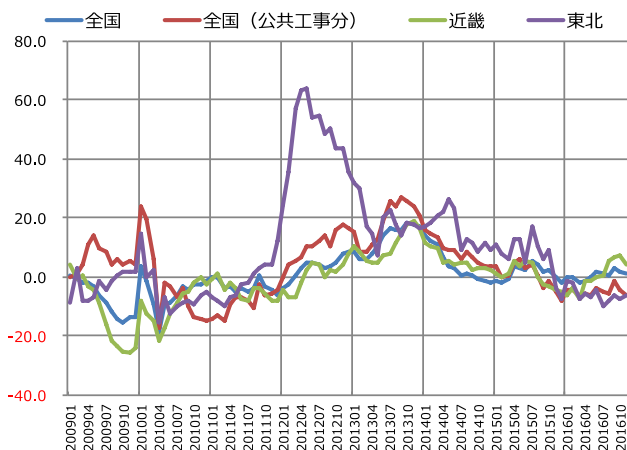
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西11月の建設工事は5,841億円で、前年同月比+4.1%と5カ月連続の増加。東北は5,932億円、同-6.4%と13カ月連続の減少。全国は4兆7,572億円となり、同+1.0%と7カ月連続の増加。全国の建設工事は増え続けている一方、東北は停滞が続いている。

うち、全国の公共工事は1兆9,992億円で同-6.3%と15カ月連続のマイナス。公共工事は依然マイナスが続いている。

建設工事(前年同月比: %、2016年11月まで)



(出所) 国土交通省「建設総合統計」

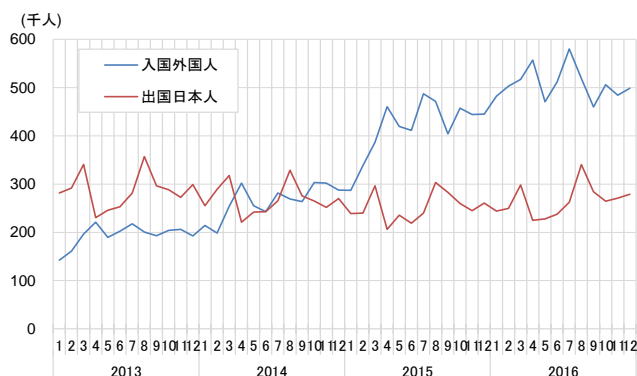
【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

12月の関空への訪日外客数は49万8,590人となり、前年同月比+12.1%と47カ月連続のプラスとなり、伸びは前月(+9.1%)から加速した。結果、2016年の訪日外客数は609万人となり、前年比+21.5%増加した。

また、12月の外国人旅客総合数(出入国含む)は99万8,260人と伸びは同+11.8%増加。出国日本人数は27万8,860人で、伸びは同+6.9%と7カ月連続で増加した。

訪日外客数と出国日本人数(人、2016年12月まで)



(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

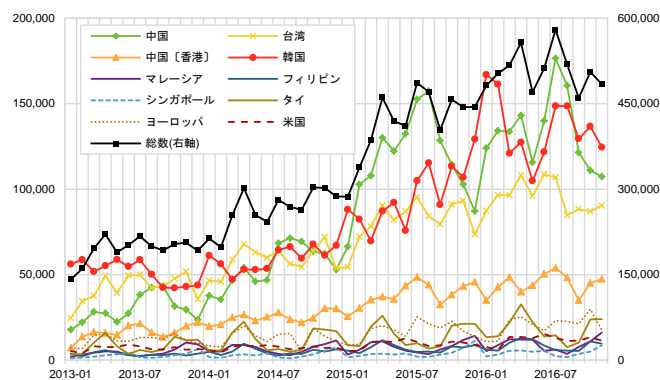
訪日外客数を地域別にみると、11月は韓国からの入国者数が12万4,563人と最も多く、前年同月比+16.6%と29

カ月連続のプラスとなった。次いで、中国(香港除く)が10万7,377人(同+4.4%)と3カ月ぶりのプラス。台湾が9万399人(同-3.0%)と、2カ月連続のマイナス。また、中国(香港)が4万7,427人(同+9.6%)であった。

他のアジア各国からの入国者数は、タイが2万3,957人(前年同月比+12.3%)、フィリピンが9,643人(同+29.1%)、マレーシアが1万6,096人(同+35.7%)、シンガポールが8,639人(同+19.4%)となった。

他地域を見ると、ヨーロッパが1万7,590人(前年同月比+3.3%)、米国が1万1,407人(同+10.9%)であった。

地域別訪日外客数(2016年11月: 人、右軸: 総数、左軸: 各国)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

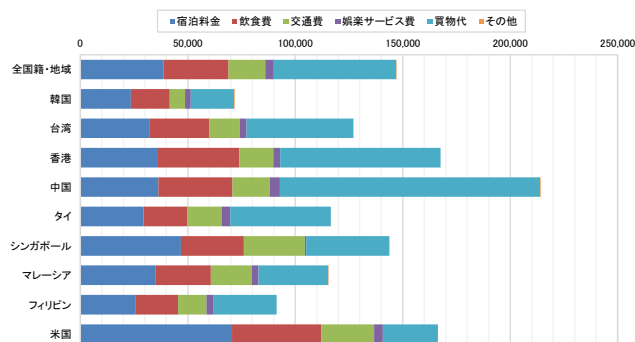
(3) 訪日外客支出

2016年10-12月期に日本を訪れた外国人による平均消費額は14万7,175円(前年同期比-12.2%)で4期連続のマイナスであった。うち、訪日外客数が最大である中国の平均支出額は21万4,136円(同-21.6%)で、こちらも4期連続のマイナス。中でも買物代は12万1,041円と同-26.2%減少しており、爆買いが話題となった昨年と比べて低水準である。

中国以外の国々について支出額を見ると、香港が16万7,637円(前年同期比+2.8%)、米国が16万6,329円(同-2.3%)、シンガポールが14万3,844円(同-23.5%)、台湾が12万7,033円(同-10.4%)、タイが11万6,538円(同-16.2%)、マレーシアが11万5,528円(同-18.7%)、フィリピンが9万1,301円(同-42.7%)、韓国が7万1,750円(同-2.1%)であった。

また、2016年全体では、平均消費額は15万5,896円(前年比-11.5%)であった。訪日外客の平均支出額は、年初来の円高の影響もあり、大きく減少している。

国別訪日外客支出総額(2016年10-12月期：全国、円)



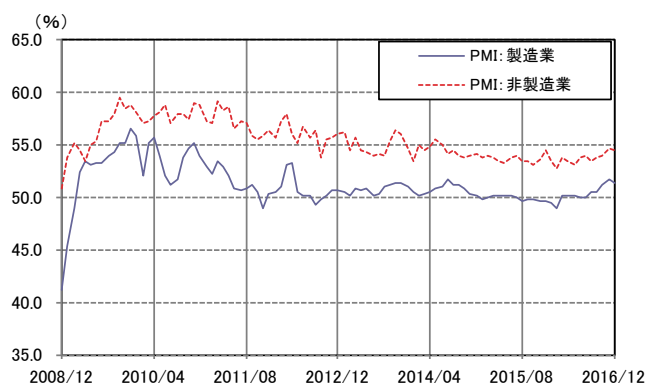
【中国景気モニター】

(1) センチメント

12月の購買担当者景況指数(PMI)は製造業、非製造業ともに前月から下落した。製造業 PMI は51.4 となり、伸びは前月から-0.3 ポイント低下し、5 カ月ぶりのマイナス。また、非製造業 PMI は54.5 となり、伸びは同-0.2ポイント低下し、4 カ月ぶりのマイナスであった。

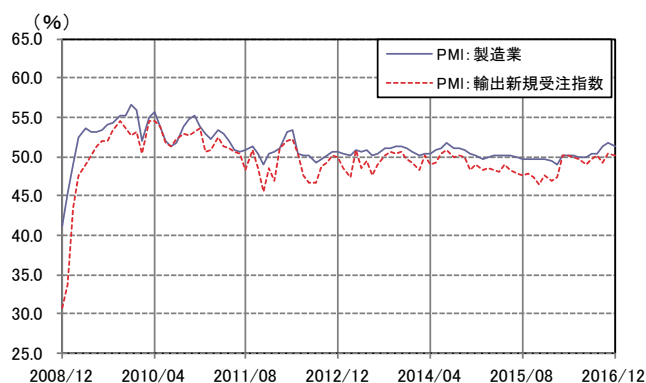
製造業 PMI のうち、生産指数は53.3 となり、前月比-0.6 ポイント低下し、5 カ月ぶりのマイナス。輸出新規受注指数は50.1 となり、同-0.2 ポイント低下し、2 カ月ぶりのマイナス。雇用指数は48.9 となり、同-0.3 ポイント低下し、6 カ月ぶりのマイナスとなった。

中国非製造業購買担当者景況指数(2016年12月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

中国製造業購買担当者景況指数(2016年12月まで)



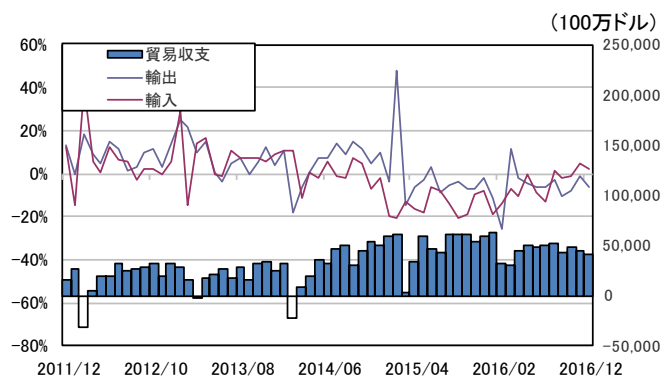
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

12月の貿易収支は+408.2億ドルで、34カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年同月より185.7億ドル縮小(5カ月連続)。うち、輸出額(速報値、ドル・ベース)は2,094.2億ドルとなり、同-6.4%減少し、9カ月連続のマイナス。また、輸入額は1,686億ドルで同+2.6%増加し、2カ月連続のプラスとなった。

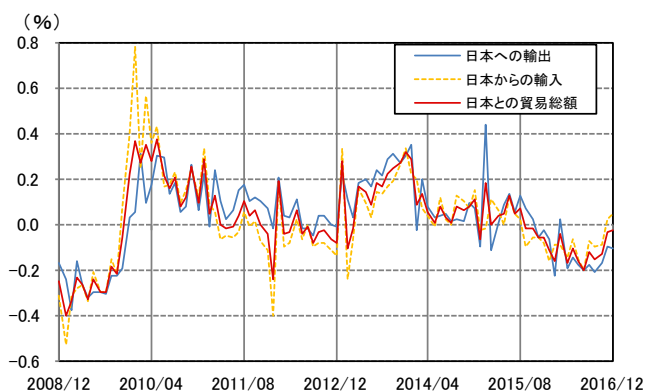
また、対日貿易収支は-36.8億ドルとなり、11カ月連続の赤字となった。うち、対日輸出額は112.8億ドルとなり、前年同月比-5.5%減少し、2カ月ぶりのマイナス。一方、対日輸入額は149.5億ドルとなり、同+10.5%と5カ月連続のプラス。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同-10.1%と、9カ月連続のマイナス。また、対日輸入額は同+5.1%となり、2カ月連続のプラスとなった。

中国の貿易動向(前年同月比：ドル・ベース)(2016年12月まで)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易 (前年同月比 : 円ベース) (2016年12月まで)



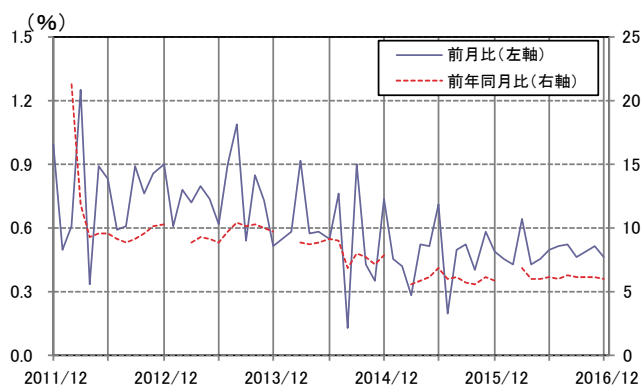
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(3) 工業生産

12月の工業生産は前月比+0.46%となり、伸びは前月から-0.05%ポイント下落し、3カ月ぶりの減速。また、前年同月比では+6.0%となり前月から-0.2%ポイント減速した。

産業別に見ると、自動車製造業(前年同月比+16.2%)、パソコン・通信設備製造業(同+13.5%)、医薬製造業(同+10.1%)などが高い伸びを示す一方で、鉄鋼などの精練・圧延加工業(同-13.1%)、鉄道・輸送機器製造業(同-1.9%)、有色金属圧延加工業(同-0.8%)などはマイナスとなった。中でも、「産能削減(過剰生産能力の削減)」の主な対象となっている鉄鋼などの精練・圧延加工業は5カ月連続で伸びがマイナスとなっており、減産量が拡大している。

工業生産指数(2016年12月まで)



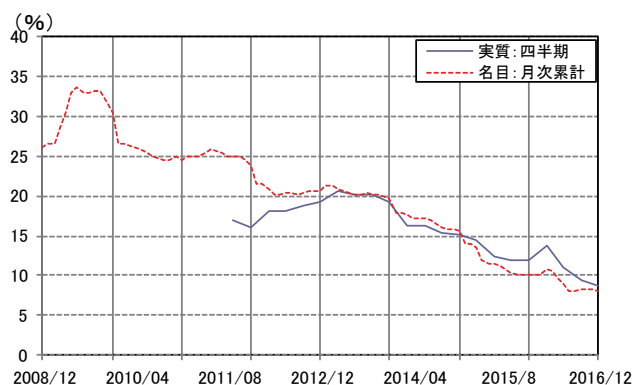
(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-12月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同月比+8.1%となり、伸びは1-11月期から-0.2%ポイント低下し、5カ月ぶりの下落となった。

産業別に見ると、第1次産業は前年比+21.1%となったが、伸びは前月から-0.8%ポイント低下し、2カ月連続の減速。一方、第2次産業は同+3.5%となり、前月から+0.2%ポイント上昇し、2カ月連続の加速。また、第3次産業は同+10.9%となり、前月から-0.4%ポイント低下し、2カ月連続の減速となった。

固定資産投資 (2016年12月まで) (累積伸び率)

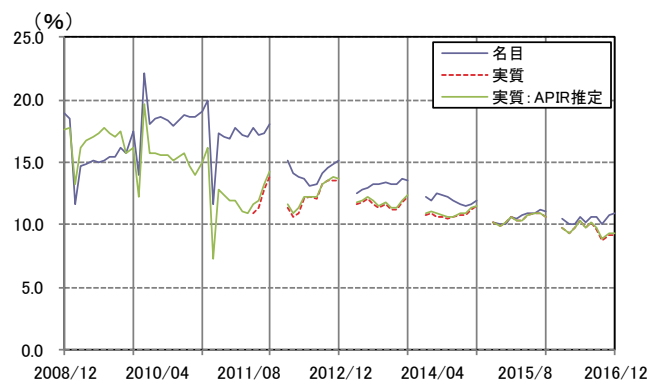


(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

(5) 消費

12月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+10.9%となり、伸びは前月より+0.1%ポイント小幅加速し、2カ月連続のプラスとなった。

社会消費品小売総額成長率の推移 (2016年12月まで)



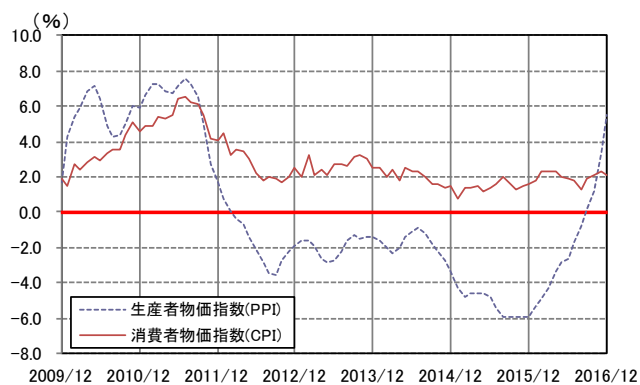
(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

(6) 物価水準

12月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.1%上昇した。伸びは前月から-0.2%ポイント低下し、4カ月ぶりの減速。また、生産者物価指数(PPI)は同+5.5%となり、伸びは前月より+2.2%ポイント加速し、4カ月連続のプラス。

消費者物価指数と生産者物価指数の推移(2016年12月まで)

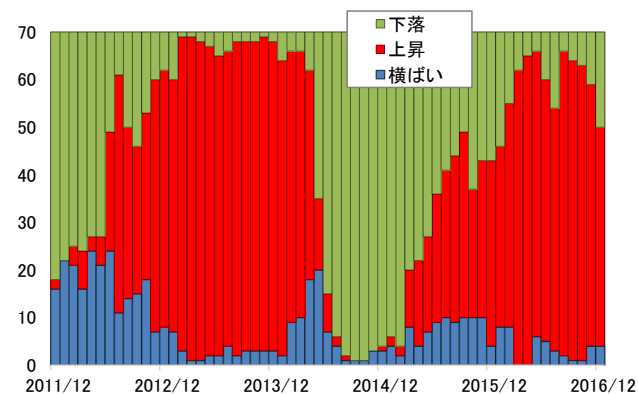


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

12月の不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要70都市のうち、価格が上昇した都市数は46都市で前月から9都市減少。一方、価格が下落した都市数は20都市で前月から9都市増加した。価格が横ばいの都市数は4都市で、前月から同横ばい。不動産市場は9月から行われている価格調整政策の影響により、引き続き低調である。

新築住宅価格の主要都市集計 (2016年12月まで: 都市数)

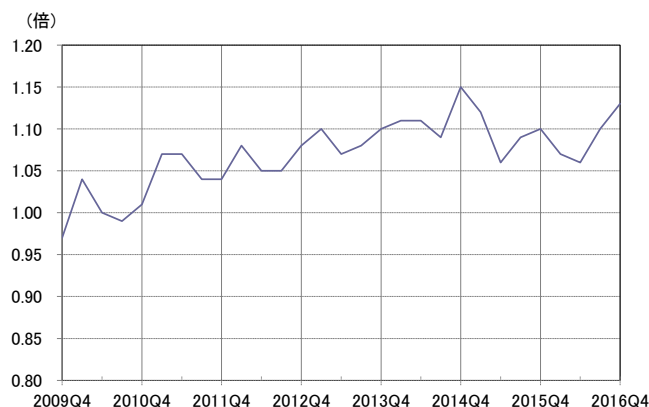


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) 求人倍率

10-12月期の有効求人倍率は1.13倍となり、7-9月期(1.10倍)から+0.03ポイント上昇した。求人倍率を地域別に見ると、東部は1.09倍で前期と同横ばい、中部は1.21倍で同+0.03ポイント上昇、西部は1.15倍で同+0.08ポイント上昇した。

有効求人倍率(2016年10-12月期まで)



(出所) 中国労働市場情報観測センター; CEIC データベース

(9) GDP

2016年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.8%となり、前期(同+6.7%)より小幅上昇した。結果、2016年の実質GDPは74.41兆元となった。また、成長率は+6.7%と前年比で-0.2%ポイント低下しており、1990年以降では最低水準となったものの、同国政府は目標成長率であった6.5%-7.0%を達成したと発表した。

APIR 試算のリコノミクス指数と実質GDP成長率の推移 (2016年10-12月期まで: %)



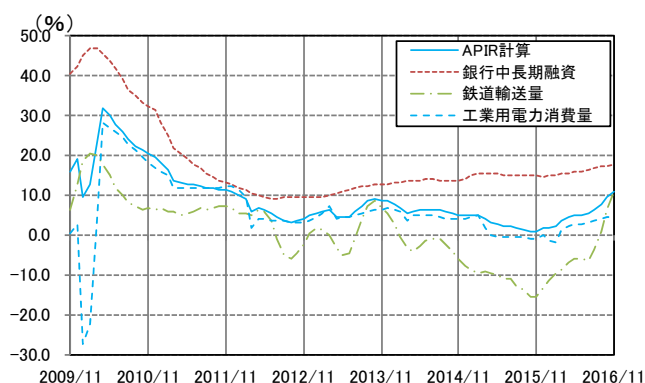
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

産業別に見ると、第1次産業の成長率は前年同期比+2.9%と前期から-1.1%ポイント下落。第2次産業は同+6.1%で、伸びは前期と同横ばい。一方、第3次産業は同+8.3%と、前期から+0.7%ポイント上昇した。

(10) リコノミクス指数

11月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+10.7%と前月から+1.3%ポイント上昇し、10カ月連続のプラスとなった。内訳をみると、銀行中長期融資は同+17.7%となり、伸びは前月から+0.4%ポイント上昇し、11カ月連続で加速している。工業用電力消費量は同+4.6%増加し、伸びは前月から+0.3%ポイント上昇し、9カ月連続の加速。また、鉄道輸送量は同+10.7%となり、伸びは前月から+4.3%ポイント上昇し、4カ月連続で加速した。

APIR 試算のリコノミクス指数と内訳(2016年11月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 林万平・木下祐輔・James Brady・Cao Thi Khanh
Nguyet

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. contact@apir.or.jp

Release Calendar for December/January

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
2-Jan	3-Jan	4-Jan	5-Jan	6-Jan 毎月勤労統計 (11月:速報値) 中国製造業 PMI (12月)
9-Jan	10-Jan 消費動向調査(12月) 近畿貿易統計 (10月確報) 近畿貿易統計 (11月確速) 中国 CPI&PPI (12月)	11-Jan	12-Jan 景気ウォッチャー調査 (12月) 近畿鉱工業生産指数 (11月速報)	13-Jan 公共工事前払保証額 統計(12月) 中国輸出入 (12月:速報値)
16-Jan 商業動態調査 (11月:確報値)	17-Jan 全国鉱工業生産指数 (11月:確報値)	18-Jan	19-Jan マンション契約率 (12月) 建設総合統計(11月)	20-Jan 毎月勤労統計 (11月:確報値) 中国工業生産 (12月) 中国固定資産投資 (12月) 中国不動産市場 (12月) 中国消費小売総額 (12月) 10-12月期中国 GDP
23-Jan	24-Jan	25-Jan 全国貿易統計 (12月:速報)	26-Jan 近畿鉱工業生産指数 (11月確報) 近畿貿易統計 (12月速報)	27-Jan
30-Jan 全国貿易統計 (12月:確速) 商業動態調査 (12月:速報値)	31-Jan 全国鉱工業生産指数 (12月:速報値) 新設住宅着工(12月) 求人倍率(12月) 完全失業率(12月)	1-Feb 10-12月期中国 求人倍率	2-Feb	3-Feb